

2017 年度事業報告

公益財団法人阿蘇グリーンストック

一、各事業報告

1 自然保全事業（公1）

【草原保全活動】

（1）野焼き・輪地切り支援活動

草原保全活動センターを拠点とし、野焼き・輪地切り支援活動等の草原保全活動について、グリーンストック運動の最も重要な事業（活動）として取り組みました。

安全管理の徹底を図るために、地元牧野組合に過去の悪かった事例を挙げて対策等の協議を行いました。また、引き続き現場での作業前の注意事項の伝達等、参加者への安全面での周知徹底を行いました。

南阿蘇村では地震の影響で2018年春の野焼きを見合わせた牧野もありましたが、それでも年間の支援牧野数は64牧野で、延べ2,494名の参加がありました。

野焼き再開については3ヵ所（西湯浦牧野、草千里周辺、柳牧野）に取り組みました。

詳細は下記のとおりです。

① 輪地切り・輪地焼き支援活動期間

- ・実施時期：2017年8月27日～2018年3月15日
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 86ヵ所（49牧野）
- ・派遣人数：延べ1,353名

阿蘇市（舞谷、二塚 他20牧野）計803名

南小国町（慈門坊、田の原牧野 他5牧野）計107名

高森町（上在、村山 他7牧野）計231名

南阿蘇村（なわす、中松1区牧野 他5牧野）計119名

小国町（縦木）23名

西原村（鳥子）50名

山都町（柳谷、柳）計20名

② 野焼き支援活動期間

- ・実施時期：2018年2月17日～4月22日（3月予定が延期のため4月実施）
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 63ヵ所（55牧野）
- ・派遣人数：延べ1,141名

阿蘇市（舞谷、二塚 他22牧野）計561名

南小国町（慈門坊、田の原牧野 他10牧野）計165名

高森町（上在、村山牧野 他5牧野）計192名

南阿蘇村（下碓、中松 1 区牧野 他 2 牧野）計 86 名
 小国町（縦木、小藪）計 32 名
 西原村（鳥子、大切畑、萌の里、宮山）計 39 名
 山都町（柳谷、柳）計 66 名

（２）研修会の開催等

野焼き・輪地切り支援活動について、引き続き安全管理の強化のための講習会、研修会等を開催しました。また、支援牧野の増加もありボランティア会員の増員に向けて草原保全活動センターを活用し、強化してきました。会員登録は 2018 年 4 月末現在 859 名となっています。

① 野焼き支援ボランティアリーダー全体会の開催

第 1 回	(2017. 5. 20)	参加者 39 名
第 2 回	(2017. 8. 5)	参加者 41 名
第 3 回	(2017. 12. 16)	参加者 42 名
第 4 回	(2018. 1. 27)	参加者 44 名

② 刈払機安全講習会の開催

第 1 回	(2017. 8. 27)	参加者 27 名
第 2 回	(2017. 9. 2)	参加者 29 名
第 3 回	(2017. 9. 9)	参加者 31 名

③ リーダー養成研修会

第 1 回	(2017. 11. 21)	参加者 5 名
-------	----------------	---------

④ 初心者研修会

第 1 回	(2017. 12. 10)	参加者 23 名	
第 2 回	(2018. 1. 21)	参加者 20 名	
第 3 回	(2018. 2. 3)	参加者 55 名	
第 4 回	(2018. 2. 10)	参加者 38 名	
第 5 回	(2018. 2. 22)	参加者 35 名	
南倫理法人会	(2018. 1. 20)	参加者 19 名	
京都精華大	(2018. 3. 8)	参加者 10 名	合計 200 名参加

⑤ 火引き研修会

第 1 回全体研修会	(2018. 1. 17)	参加者 18 名
第 2 回実技研修会	(2018. 2. 24)	参加者 12 名
第 3 回実技研修		
的の石牧野 (阿蘇市)	(2018. 3. 11)	参加者 10 名
慈門坊牧野 (南小国町)	(2018. 3. 11)	参加者 5 名
柳谷牧野 (山都町)	(2018. 3. 25)	参加者 8 名
片山牧野 (高森町)	(2018. 3. 25)	参加者 8 名
柳牧野 (山都町)	(2018. 4. 8)	参加者 4 名

⑥ 野焼き従事者安全管理研修会

阿蘇市	(2018. 1. 25)	100名参加
高森町	(2018. 1. 25)	20名参加
西原村	(2018. 2. 1)	70名参加
南阿蘇村	(2018. 2. 6)	12名参加
南小国町	(2018. 2. 8)	60名参加

(3) 活動時のボランティア宿泊支援

活動時のゆたっと村宿泊に関しては低価格(1泊600円+光熱費)にて提供し、遠方より参加の場合や、ボランティア開始時間が早いため、移動中の自動車事故防止のためにも利用していただけるようしています。今年度は延べ204名の利用がありました。

【森づくり活動】

水源涵養の森づくり活動については、連携企業・団体の方々と共に、これまで植林してきた広葉樹の森の下草刈りや枝打ち作業を行いました。

4月16日(日)	西陵ロータリークラブ	15名参加
5月27日(土)	コカ・コーラウエスト	50名参加
9月21日(土)	富士通	台風のため中止(100名参加予定)

【普及啓発活動】

野焼き支援活動の情報発信及び普及・啓発、広がりづくりについて下記の様に取り組みを行いました。

(1) 草原フェスティバルを開催しました。

1. 名称 ASO 草原フェスティバル ～いざ、千年の草原へ！～
2. 日時 2017年10月28日(土) 午前10時～午後4時
3. 場所 草原保全活動センター敷地内及び館内
4. 主催 ASO 草原フェスティバル 2017 実行委員会
5. 動員 850名の実績
6. 開催目的：草原保全活動センターが出来て2年、阿蘇の草原の魅力を発信すると同時に草原の保全活動を行ってきました。今回のフェスティバルでは関係団体と協力連携し、阿蘇の草原を切り口として、食と農、草原と人々の営み、草原の楽しみ方などについて、楽しみながら知っていただくような仕掛けを行いました。また、阿蘇草原保全活動センターについてお知らせし、今後利用して頂けるよう呼びかけを行いました。
7. イベント内容
 - ・ステージイベント
 - ビエントコンサート 地元小学生牛追い 草原に関するトークショー
 - くまモンショー 草原〇×クイズ(草原めぐりツアー、クラフト体験)
 - ・草原マルシェ【あか牛や野菜、米など、阿蘇の農作物、加工品、弁当等の販売】

・利用普及あか牛の丸焼き

(2) 阿蘇草原の野焼き活動のための入門セミナー・野焼き見学会

- ・「草原保全・再生セミナーin福岡」
- ・実施日 2017年11月17日(金) 16名参加
12月3日(日) 24名参加
- ・実施場所 アクロス福岡(福岡市)
- ・内容 ①草原の機能、草原保全の仕組みの研修のためのセミナー
②来春の野焼き体験企画を紹介し、参加を募り支え手拡充に繋げる
- ・2月17日(土)に町古閑牧野で、セミナー参加者を対象に野焼き見学を実施
参加者29名で野焼きボランティアを希望される方が15名ほどあった

(3) 野焼き見学会

- ・田空企画で野焼きの現場を見てもらい、草原の現状についての理解とボランティア活動への参加などを呼び掛けました。

3月24日(土)実施 波野トラスト地 参加者9名

※ 公1の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
活動会員受取会費	1,478,000	野焼きボランティア会費
自然保全事業収益	32,155,863	草原保全システム(1741万)、キリン絆P(1060万)世界文化遺産登録推進協議会(130万)森づくり,研修他事業(284万)
ゆたっと村利用事業収益	144,800	ボランティア活動時の宿泊費
受取補助金等	11,983,554	阿蘇草原再生募金助成金(210万)大東建託みらい基金(100万)多面的機能支払(838万)草原フェス農業遺産(50万)
受取寄付金	4,908,424	草原ハンバーグ(64万)、熊本トヨタ(90万)、コカ・コーラいろはすプロジェクト(118万)松合食品(30万)、一如社(30万)、九電生協(50万)、エコトラ(20万)、九建運送(10万)GSC(6万)他
雑収入	17,000	
収入合計	50,687,641	

人件費計	16,518,094	
物件費計	34,505,136	
支出合計	51,023,229	

(収入) 50,687,641円 - (支出) 51,023,229円 = △335,588円

2 自然体験・農業体験学習事業（公2）

（1）農村体験型修学旅行受入事業（ファームステイ）

子どもたちが一般の農家に民泊し、阿蘇の農村での生活や様々な農業体験を通して農業・農村の大切さを学び、自然や人とのふれあいを大切にした体験企画などで、青少年の健全な育成を目指すことを目的に取り組みを予定していましたが、昨年同様熊本地震により受入校の低迷が続いています。

阿蘇市、南小国町、南阿蘇村、西原村、高森町の約80軒の受け入れ農家の方と東北の復興事例視察、及び安全講習会・衛生講習会などを経て中・高校生の農村民泊及び農業体験学習などの受け入れ準備を引き続き行いました。また、受入農家用、学校・旅行社用の各種パンフレットの作成、草原に係る体験メニューの開発を進めて来ました。

ファームステイの実績は以下の通りです。

2017年4月20日(木)	東かがわ市立白鳥中学校	73名	1泊2食1体験
2018年1月13日(土)	JENESYS 大洋州2017	24名	1泊3食1体験
3月15日(木)	JENESYS モンゴル2017	38名	1泊3食1体験

（2）環境教育及び農業体験事業

将来の阿蘇を担っていくことになる地元の子供たちをはじめ、都市の子供たち、また高校生、大学生、団体へ、草原トレッキングやクラフト体験などを含め様々な自然・農業体験プログラム等の企画を通じ環境教育について取り組みました。

また、阿蘇市の事業で体験プログラムの開発、草原観察ルートづくり、草原データベースなどにも取り組んでいます。

●地元小学生の草原環境・体験学習は以下の通りです。（13校実施）

（実施校）	（テーマ）	（学年）	（人数）	（実施日）
・阿蘇小学校				
	野焼きのあとを見よう			
	草原の生きものについて学ぼう	6年	41名	6/9（金）
	草原のススキで野草紙を作ろう（ススキ刈り）	6	41	10/3（火）
	草原のススキで野草紙を作ろう（紙漉き）	6	41	1/17（水）
	草原のススキで人形を作ろう	6	41	12/15（金）
	防災教育プログラム	5	41	12/11（月）
	野焼きについて学ぼう（事前学習）	5	41	1/24（水）
	野焼きについて学ぼう（野焼き体験）	5	41	2/26（月）
・阿蘇西小学校	”			
	熊本市動植物園連携			
	草原のススキで野草紙を作ろう（事前学習）	6	24	11/2（木）
	草原のススキで野草紙を作ろう（ススキ刈り）	6	24	11/2（木）
	草原のススキで野草紙を作ろう（紙漉き）	6	24	1/15（月）
・山田小学校				
	草原のススキで野草紙を作ろう（事前学習）	5,6	13	学校の授業で適宜実施

草原のススキで野草紙を作ろう (ススキ刈り 5, 6	13	10/30 (月)
草原のススキで野草紙を作ろう (紙漉き) 5, 6	13	12/11 (月)
・一の宮小学校		
草原が育んだ文化について学ぼう	4 84	10/5 (木)
あか牛と草原について学ぼう		
草原のススキで野草紙を作ろう (紙漉き)	4 84	10/6 (金)
野焼きについて学ぼう(事前学習)	4 84	2/20 (火)
野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	4 84	2/23 (金)
・内牧小学校		
阿蘇のカルデラと草原のなりたちについて学ぼう	4 43	5/18 (木)
草泊まり作り (集団宿泊学習)	4 43	10/10(火)11(水)
・りんどうヶ丘小学校		
野焼きのあとを見よう		
草原の生きものについて学ぼう	2, 3, 4 22	5/12 (金)
草原の生きものについて学ぼう	2, 3 17	10/4 (水)
草原のススキを使って人形を作ろう	2, 3 17	10/25 (水)
・産山小学校		
草原が育んだ文化について学ぼう(草刈り)	4 15	10/20 (金)
草原が育んだ文化について学ぼう(草泊まり作り)	4 15	11/1 (水)
・高森中央小学校		
草原でオオルリシジミと自然観察	4 43	5/25 (木)
野焼きについて学ぼう(事前学習)	4 44	1/26 (金)
野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	4 44	3/1 (木)
・高森東学園		
草原でオオルリシジミと自然観察	4 5	5/25 (木)
野焼きについて学ぼう(事前学習)	4 5	1/26 (金)
野焼きについて学ぼう(野焼き体験)		
・白水小学校		
草原の生きものについて学ぼう (オオルリシジミ)	3 10	5/8(月)9(火)
・中松小学校		
草原の生きものについて学ぼう (オオルリシジミ)	4 10	5/10 (水)
・山西小		
草原の生きものについて学ぼう	3 60	10/23 (月)
・河原小		
草原の生きものについて学ぼう	3 8	10/23 (月)

●農業体験は以下の通りです。

2018年1月19日(金) 兵庫県立山の学校

11名 1食1体験

(3) ゆたっと村での体験事業

修学旅行生、地元団体、一般の方などを対象に、ゆたっと村里山交流館の周辺の農地、山林等を利用した里山の暮らしの体験を行う予定でしたが、道路状況の影響もあり修学旅行などの団体利用、家族などの一般利用が震災前の状況に戻らない様子にあります。

下記の行事は行いました

- ・12月24日 もちつき 23名参加
- ・3月25日 グリーンコープ組合員33名参加によるたかな折り・漬け、椎茸コマうち・収穫体験 33名参加

公2の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
村民受取会費	153,000	村民会費
自然体験・農業体験学習事業収益	2,667,256	民泊・体験受け入れ(48万)、阿蘇市草原観光拠点づくり(218万)
ゆたっと村体験事業収益	150,000	もちつき、たかな折り 他
収入合計	2,970,256	
人件費計	1,199,200	
物件費計	2,536,315	
支出合計	3,735,515	

(収入) 2,970,256円 - (支出) 3,735,515円 = △765,259円

3 調査・研究事業(公3)

北外輪地区湿地に於ける生物多様性保全事業に引き続き取り組み、各機関・団体の許可を得て希少植物の育苗を行いました。一方で、草資源の利活用について茅利用の調査を進めています。

- ・草刈と刈草の運び出しによる希少植物の保全活動
- ・植生調査と採種
- ・草資源事業化に向けた調査(茅ぶき屋根材)

公3の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
事業収入	4,440,000	阿蘇市草原環境共生基金(30万) 世界農業遺産(200万) 観光拠点づくり(200万)
収入合計	4,440,000	
人件費計	450,521	
物件費計	4,634,429	
支出合計	5,084,950	

(収入) 4,440,000円 - (支出) 5,084,950円 = △644,950円

4 あか牛オーナーへのあか牛肉販売事業（収1）

阿蘇の草原を守るためには、阿蘇の草原を利用した畜産業の発展が最も有効な手段となります。独特な事業として阿蘇のあか牛の増頭又は維持に向けた畜産農家への支援のために県内外の方へオーナーへの参加を呼び掛けました。

①あか牛オーナー制度について

（一般オーナー）

2017年度新規契約オーナー数	7名（あか牛 8頭）
2017年度時オーナー数	29名（あか牛 28頭）
合計	36名（あか牛 36頭）

受入牧野のエリアに関しては、南阿蘇畜産農業協同組合の協力もあり阿蘇市、南阿蘇村、高森町に及んでいます。また、オーナー代表者会議を年2回、名前書き交流会を年2回開催しオーナー制度の運営及びオーナーと受入農家との交流を図りました。

オーナー交流会開催	7月22日	35名参加	
	町古閑牧野	あか牛とのふれあい 餌やり、名前書き	
	11月12日	19名参加	
	中村牧場（南阿蘇村）	あか牛とのふれあい 授乳	

②あか牛肉販売について

あか牛オーナー制度（オーナーより1頭につき30万円を預り金扱いとし、30万円を畜産農家へ繁殖牛購入資金として無利子で貸し出す）については、年間6万円を目途にオーナーの申込みに応じてあか牛肉を5年に亘ってお届けするものです。

収1の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
活動会員受取会費	80,000	
事業収益	2,950,300	あか牛肉他の利用
雑収入	156,594	保冷箱、保冷剤代
収入合計	3,186,894	

人件費計	293,711	
物件費計	2,812,751	
支出合計	3,106,462	

（収入）3,186,894円 －（支出）3,106,462円 ＝ 80,432円

5 食事提供及び農産物の販売等事業（収2）

あか牛肉の利用普及のために、ゆたっと村でバーベキューの提供を行いました。又、地元の農産物の販売を道の駅でも委託販売をした事業収入がありました。

- ① ゆたっと村での宿泊、バーベキューを団体や個人に提供しました。
- ・ 宿泊、施設利用 116名 (2016年 89名)
 - ・ バーベキュー等の提供 78名 (2016年 78名)
- ② 農産物の収穫・販売をしました。
- ・ 椎茸 ・ 落花生 ・ 栗 ・ ブルーベリー ・ さつまいも ・ 梅

収2の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
事業収益	738,110	宿泊 191,400円 BBQ 315,060円 農産品 112,660円
収入合計	738,110	

人件費計	181,144	
物件費計	463,238	
支出合計	644,382	

(収入) 738,110円 - (支出) 644,382円 = 93,728円

6 受託調査事業（収3）

阿蘇草原再生野草地環境保全計画調査事業（環境省、通称「牧野カルテ」）について、阿蘇草原再生協議会会員で国立公園内の牧野組合を対象とした環境省による調査事業で、草原文化（草原の活用、地名、希少動植物等の調査）及び草原保全（野焼き作業軽減の為の防火帯整備等の調査）について調査を行ってきました。

調査牧野は平中園屋敷牧野（阿蘇市）、柿野山田牧野（南阿蘇村）、小倉原（高森町）の3牧野組合でした。

収3の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
事業収益	10,638,000	
収入合計	10,638,000	

人件費計	4,065,171	
物件費計	5,978,275	
支出合計	10,043,446	

(収入) 10,638,000円 - (支出) 10,043,446円 = 594,554円

7 受託管理事業（収4）

（1）事業の内容

環境省の「草原学習館」及び阿蘇市の「草原情報館」の2つの施設管理を受託し、それぞれ下記のような施設概要で、連携して管理運営にあたりました。主には財団で施設、警備、清掃、日常管理、総合窓口、来客者対応、案内、展示物管理、情報提供ホームページ管理等を行ってきました。

- ・草原学習館来館者・利用者数 8,584名（昨年7,226名 1,358名増）

（2）施設の概要

①環境省「草原学習館」

- ・規模：建築面積806.28㎡、延床面積：684.37㎡
- ・構造：木造平屋建て
- ・機能：レクチャールーム、展示、屋外作業スペース、事務室、トイレ、倉庫
- ・駐車場：普通車33台、身障者用1台、大型バス2台

②阿蘇市「草原情報館」

- ・規模：建築面積729.48㎡、延床面積：648.07㎡、広場：1,200㎡
- ・構造：木造一部鉄骨造平屋建て
- ・機能：ワークスペース、事務室、オフィス、トイレ、倉庫、駐輪場
- ・駐車場：普通車71台、身障者用2台、大型バス2台

収4の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
受託管理事業収入	8,868,040	草原学習館718万、草原情報館168万
収入合計	8,868,040	

人件費計	4,446,665	
物件費計	3,857,641	
支出合計	8,304,306	

（収入） 8,868,040円 －（支出） 8,304,306円 ＝ 563,734円

7 法人会計

月次決算等、会計処理については公認会計士に委託して運営しました。

法人会計の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
基本財産運用益	400,000	
維持賛助会費	3,020,358	個人会員 86 名 (258,000 円) 団体会員 (2,762,358 円)
雑収入	369,724	
収入合計	3,790,082	

人件費計	850,208	
物件費計	2,270,833	
支出合計	3,121,041	

(収入) 3,790,082 円 - (支出) 3,121,041 円 = 669,041 円

二. 2017 年度収支決算について

(1) 上記のとおり事業全体としての経常収支は

(収入) 85,319,023 円 - (支出) 85,063,331 円 = 255,692 円

となります。

(2) 公益事業比率は、59,843,694 円 ÷ 85,063,331 円 = 70.35%

となります。